

変化の激しい中でも 前に進んでいく年度へ



令和7年度市長施政方針(骨子) 令和7年第1回多摩市議会定例会で阿部市長が令和7年度の施政方針を述べました。その概要をお知らせします。

はじめに

世界では、分断と対立、差別などにより、子ども、女性、障がい者など弱い立場の方が声をあげることの困難な状況が続いています。

本年は戦後80年の年です。平和首長会議の一員として、被爆の実相の継承と、核と戦争のない恒久平和の世界を創ろうとの声を多摩地域か

ら響かせていきます。

昨年、自治基本条例施行20年を迎え、「協創」という考え方を条例に取り入れるとともに、市職員による「協創サポーター」制度を開始しました。地域のイベントで顔の見える関係をつくり、地域コミュニティの再生に向け地域の皆さんの活動を応援します。

多摩センター地域で自動運転バスの走行実験、永山地域で移動モビリティ実証実験をしました。

多摩川河川敷の「せいせきカワマチ」の取り組みは、国土交通大臣から「かわまち大賞」の表彰を受けました。子育て世代や若い人々に選ばれるまちとするため、現場の声に耳を傾け、市役所の総力を挙げて取り組みます。(2面へ続く)



(阿部市長)

- 令和7年度市長施政方針(骨子)
- 令和7年度(2025年度)予算(案)
- 令和7年度に多摩市がさらに進める取り組みの一部をご紹介します

- 令和6年度住民税非課税世帯への給付金(こども加算)の受け付けが始まります
- 子ども・若者関連情報、いきいきシニア
- 市内で夢を実現しました
- 若者たちの心の声を聞いてみませんか？

- 求人・募集、税
- 講座・催し物
- Let's 健幸まちづくり！
- 聖蹟桜ヶ丘(関戸)駅は開業100周年を迎えます！